

ミニ講座

①

演題：「発達を促す遊びや活動—発達段階と感覚統合の視点から—」

講師：池田千紗（北海道教育大学札幌校）

内容：

鉄棒ができない、リコーダーが苦手、着替えが素早くできないなど、体を思い通りに動かすことができず、本来の学びに集中することが難しい児童生徒への支援方法を紹介します。目的とする運動や動作を繰り返し練習するのではなく、その運動や動作の獲得に必要な要素を様々な場面で取り入れることで、楽しみながら発達を促すことができます。本講座では発達段階の捉え方や感覚特性に配慮した環境設定の工夫についても解説します。

②

演題：「知的障がいがある人の生涯学習のこれから

—オープンカレッジの取り組み事例から—

講師：近藤尚也（北海道医療大学）

内容：

学習指導要領では、学校教育段階から将来を見据えた教育活動の充実を図る観点が盛り込まれました。その一方で、学校卒業後に障がいのある人が学べる場については、まだ十分に整っているとは言えないのが現状です。今後、学校教育と卒業後の生涯学習の機会をどのようにつなげ、広げていけるのか、道内で取り組まれているオープンカレッジの事例を紹介しつつ考えます。

③

演題：「通級指導教室における LD のある子どもへの支援」

講師：山下公司（札幌市立南月寒小学校）

内容：

特別支援教育の理解や実践は進んできていますが、LD のある子どもへの支援は、十分とは言い難いのではないのでしょうか。単に“勉強ができない”子どもとして扱われ、十分な理解や支援がないまま自己肯定感を低下させている可能性は否めません。

LD のある子どもへの支援は、通級指導教室においても通常の学級との連携のもと行われています。そこで、今回は、通級指導教室における LD のある子への支援と指導についてお伝えしていきます。

④

演題：自閉症スペクトラム障害児者の授業場面における視線の特徴について

講師：齊藤真善（北海道教育大学札幌校）

内容：

自閉症スペクトラム障害児（以下、Autism Spectrum Disorder :ASD）の一斉授業場面での学習困難の背景に、従来型の授業・教材デザインと ASD の認知スタイルとの間の不適合があると想定されます。ASD が必要な情報を選択しやすく、かつ効率的な注意配分を可能にする教授方法（主に教師の言動）のあり方について、当事者の授業中の視線探索パターンを通した分析結果について解説します。本報告は、平成 29～31 年 文部科学省科学研究費助成事業 挑戦的研究（萌芽）「視線研究に基づく ASD 児者の予測性を高める授業及び教材デザインの検討」（研究代表者：齊藤真善）の中間報告となります。

⑤

演題：「みんなのシェルボーン・ムーブメント

—どの子も大切にされる身体の活動—

講師：瀧澤 聡（北翔大学）

内容：

シェルボーン・ムーブメントは、英国の体育教師及び理学療法士であるベロニカ・シェルボーンにより創案されました。障害の有無によらず幼児から高齢者まで、幅広い年齢層を対象にできます。このムーブメントの特色は、さまざまな動きの質を経験することに注目して活動がすすめられ、特別な道具は必要ないことであり、しっかり安定した床面があれば十分です。みんなが楽しめるムーブメントのメリットを紹介します。

⑥

演題：「学校と他機関連携による児童生徒への指導」

講師：青木一真（北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校）

内容：

平成 30 年 5 月に文部科学省、厚生労働省の連名で「教育と福祉の一層の連携等の推進について」（通知）が出されました。家庭・教育・福祉の一層の連携による支援体制の整備が謳われ、学校現場にも「放課後等デイサービス」等から児童生徒に係る会議の要請が来ることも増えてきたかと思われます。しかし、教育側からどのように他機関と連携をはかれば良いのか手探りの現場も多いのではないのでしょうか。要請に応じるという「受け身」の連携から一歩踏み出し、積極的に他機関と連携をはかり児童生徒の指導支援に生かせるよう、学校現場での事例を基に今後の学校と他機関との連携について考えたいと思います。

⑦

演題：「多層指導モデル MIM の活用による読みの流暢性向上の指導」

講師：村田敏彰（千歳市立東小学校）

内容：

読みの流暢性は国語のみならずすべての学習領域において不可欠なスキルで、その難関である特殊音節や語のかたまりの認知につまずくと読解力向上の大きな妨げとなり、学習全般の意欲低下を招きかねません。多層指導モデル MIM は通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援をしていこうとするモデルです。本講座では MIM の概要に触れながら、本校における実践事例を紹介し、MIM への理解を深めます。

⑧

演題：「通常学級における合理的配慮に関する Q&A」

講師：千賀 愛（北海道教育大学札幌校）

内容：

日本政府による国連の障害者権利条約(2014)の批准や国内における障害者差別解消法(2016)の施行により、特別支援学校や特別支援学級以外の場所で障害に応じて適切な支援や配慮を行うことが求められています。しかし実際には、保護者が担任に相談しても対応につながらないこと、配慮の内容を周囲の子どもや保護者にどう説明するかで苦慮したり、通常学級で学ぶ障がいのある子ども等に十分な学習環境を整えることが難しい場合が多いと思います。ミニ講座では、合理的配慮の大原則が子どもや本人の希望や意向であることを念頭に、具体的な場面を想定した合理的配慮の実際を Q&A 方式で解説します。

⑨

演題：「障害のある人々にとっての余暇の意味とは？課題とは？」

講師：安井友康(北海道教育大学札幌校)

内容：

障害のある人々にとっての余暇参加の意味とは何か？生活支援と就労支援の狭間で、見過ごされがちな、あるいは、ともすると後回しにされがちな余暇参加について、その意味を再考します。そして私たちの地域社会を考える上で、地域や学校における今後に向けた取り組みの方向性を考えます。